

新横浜・大豆戸・菊名・大倉山・新羽など港北区南部の「地域インターネット新聞」ダイジェスト版です

ネットで注目の話題

shin-yoko.net

2023年「相鉄・東急直通線」開業で変化する新横浜エリア



再開発議論が進む新横浜駅の篠原口(写真左)と相鉄直通線の新型車両

相鉄・東急直通線(西谷～羽沢横浜国大～新横浜[仮称]～新綱島[仮称]～日吉)の路線名が新横浜駅を境に「相鉄新横浜線」と「東急新横浜線」に決まり、2023年3月末までの開業へ向け、周辺の動きが活発化しています。

新横浜駅前の環状2号線地下に設けられる駅は、駅名は仮称で、相鉄と東急のいずれが管理するかも未定ですが、

開業後は東急線を通じ、都営三田線などの東京都心部まで直通が可能となり、始発列車も一部設定。

利便性が高まる新横浜では、再開発計画が止まったままの篠原口(南口)駅前エリア(約3万5000㎡)で議論を再開し、今年3月には日鉄興和不動産と東急電鉄を事業協力者に選定。現在は過半数にとどまるとされる地権者の賛同を得る努力が続けられています。

駐車場での土地利用が目立つ新横浜1丁目では、マンションの建設が相次いでおり、特に駅篠原口から近い新幹線高架側では、分譲3棟(計210戸超)と賃貸3棟の工事が同時進行中です。

今年11月末には、相鉄直通線のうち「相鉄・JR直通線」が先に開通することが決定しており、新横浜の隣駅となる羽沢横浜国大駅も開業します。

3年半ほど先に控えた相鉄・東急直通線の開業まで、新横浜周辺の動向から目が離せません。(裏面に関連記事)

地域のニュース

● 歩きづらい菊名駅東口の「まちづくり」を議論

狭くて歩きづらい菊名駅東口で再開発へ向け、商店街などによる議論が始まりました。相鉄・東急直通線の開業で乗り換え客減少の危機感を共有。さらに今後の綱島街道の拡幅構想も考慮しつつ、まちづくりの方向性を決めていく予定です。

● 特急「はまかいじ」廃止？ 春から運転されず

JR横浜線を走っていた臨時特急の「はまかいじ号」(横浜～新横浜～八王子～甲府～松本)が今年3月のダイヤ改正後に運転されなくなりました。新横浜駅から信州方面を結ぶ唯一の特急列車として、20年以上にわたって運行が続いてきただけに、再開が望まれます。



中央線特急には新型車両が導入されたが、はまかいじ号は旧型車両を使っていた

● 港北公会堂が無料公演など自主事業を強化

港北公会堂では今年4月から運営・管理を担う指定管理者が交代し、月1回の無料ロビーコンサートなどの自主企画事業に注力しています。来年5月から天井工事で9カ月間の休館が余儀なくされているだけに、ソフト面の強化で区民の満足度を高めていきたい考えです。

ラグビーW杯のチケット入手できる可能性は…

9月21日から11月2日に日産スタジアムで7試合が行われる「ラグビーワールドカップ(W杯)」。

チケット入手困難

な状態が続いていますが、販売サイトでは不定期に在庫が放出され、売り切れたはずの試合で入手できる可能性も。定期的にチェックしてみてください。



不定期にチケット在庫が販売されている



発行者からお知らせ

「新横浜新聞～しんよこ新聞」は2016年からインターネットで発信している地域メディアです。掲載記事をまとめた紙のダイジェスト版を2年ぶりに発行しました。インターネット上で港北区南部エリアの情報を日々発信していますので、スマートフォンやパソコン、タブレット端末などを通じ、ぜひご覧ください。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社
横浜市西区北幸1-11-1 水信ビル7階

【裏面もご覧ください】

「新横浜新聞～しんよこ新聞」は創刊3周年を迎えました

「港北区南部エリア」の情報をネットで日々発信していきます

3年前の2016年7月8日に始まった地域インターネット新聞「新横浜新聞～しんよこ新聞」は、運営開始から4年目に入りました。

新横浜を中心に菊名や大豆戸、篠原、大倉山、新羽、小机などの港北区南部エリアの情報を発信するとともに、2023年3月までに開業が予定される「相鉄・東急直通線」(相鉄新横浜線／東急新横浜線)で直結し、“新横浜都心部”と位置付けられる羽沢横浜国大駅(神奈川区)周辺についても、その動向を報じてきました。

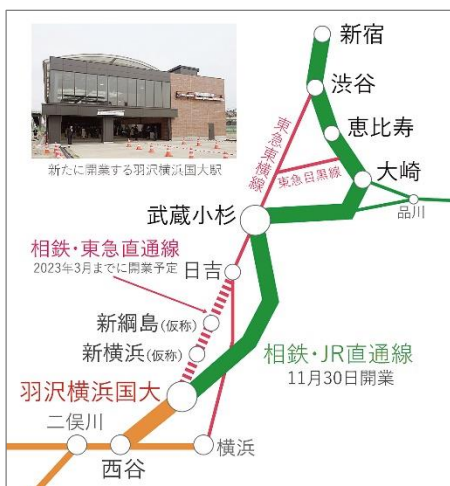
4年目も、変化が予想される新横浜などの港北区南部エリアの動きを追いかけてまいります。

インターネットで日々情報を発信していますので、ご愛読のほど宜しくお願い申し上げます。

新横浜新聞～しんよこ新聞



世界的なスポーツの舞台となる日産スタジアム(小机町)と富士山



新横浜新聞～しんよこ新聞の人気記事ダイジェスト

2019年上半期に公開したなかから人気を集めた記事をご紹介します

「相鉄・JR直通線」は11月30日に開業 羽沢横浜国大からJR武蔵小杉へ直行

相鉄・JR直通線(相鉄線方面～西谷～羽沢横浜国大～JR武蔵小杉～新宿方面)の開業日が今年11月30日に決定しました。

同線は相鉄線の西谷駅(保土ヶ谷区)から新たに連絡線を設け、新設される羽沢横浜国大駅(神奈川区)を経て、港北区の妙蓮寺駅付近などの地下を貫く「東海道貨物

線」を通過。鶴見駅手前で横須賀線と合流してJR武蔵小杉駅へ至り、大崎や新宿方面と相鉄線が相互直通運転する路線。

朝のラッシュ時は1時間あたり4本程度、日中は1時間に2～3本の運転が計画されています。



● 渋谷から大倉山・新羽への深夜急行バス減便

東急東横線の終電後、深夜1時過ぎに渋谷駅を出発し、大倉山駅などを経て新横浜駅へ至り、「亀甲橋」経由で新羽駅近くの営業所までを結ぶ深夜急行バス「ミッドナイトアロー号」。木曜深夜の運行が今春から減便となりました。

近年は深夜までの宴会が少なくなり、「働き方改革」の影響も加わって、利用者が減少傾向にあるとのことです。



● 港北区が区制80年、横浜アリーナは30周年

港北区は今年で区制80周年を迎え、歩みを振り返る記念動画や記念誌を製作し、区の公式サイト内で公開しています。

横浜アリーナも今年はオープンから30周年となり、1989(平成元)年4月に「こけら落とし公演」を行った松任谷由実さんの記念公演と、18年ぶりとなる「大相撲巡業」を4月に行いました。

● 地域活動ホームで「室内農業」の新たな挑戦

大豆戸町の「しんよこはま地域活動ホーム」で、障害者の新たな雇用創出を目指し、屋内で野菜を栽培する“室内農業”のプロジェクトが始動。機器の導入などで必要な資金を「クラウドファンディング」の仕組みを使って“出資”を募っており、斬新な取り組みに注目が集まっています。



● 新横浜パフォーマンスは9月14・15日に駅前

今年の「新横浜パフォーマンス」は、ラグビーW杯準備などの影響で日産スタジアムが使えず、9月14日(土)と15日(日)の2日間に新横浜駅前の東西両広場を会場とすることを決定。ステージとブースは、岸根寄りの「西広場」に設けられます。現在、出店者と出演者の募集を行っています。



しんよこ新聞では「ツイッター」(@shinyoko_net)や「フェイスブック」(@shinyokonews)でも日々情報を発信中です

